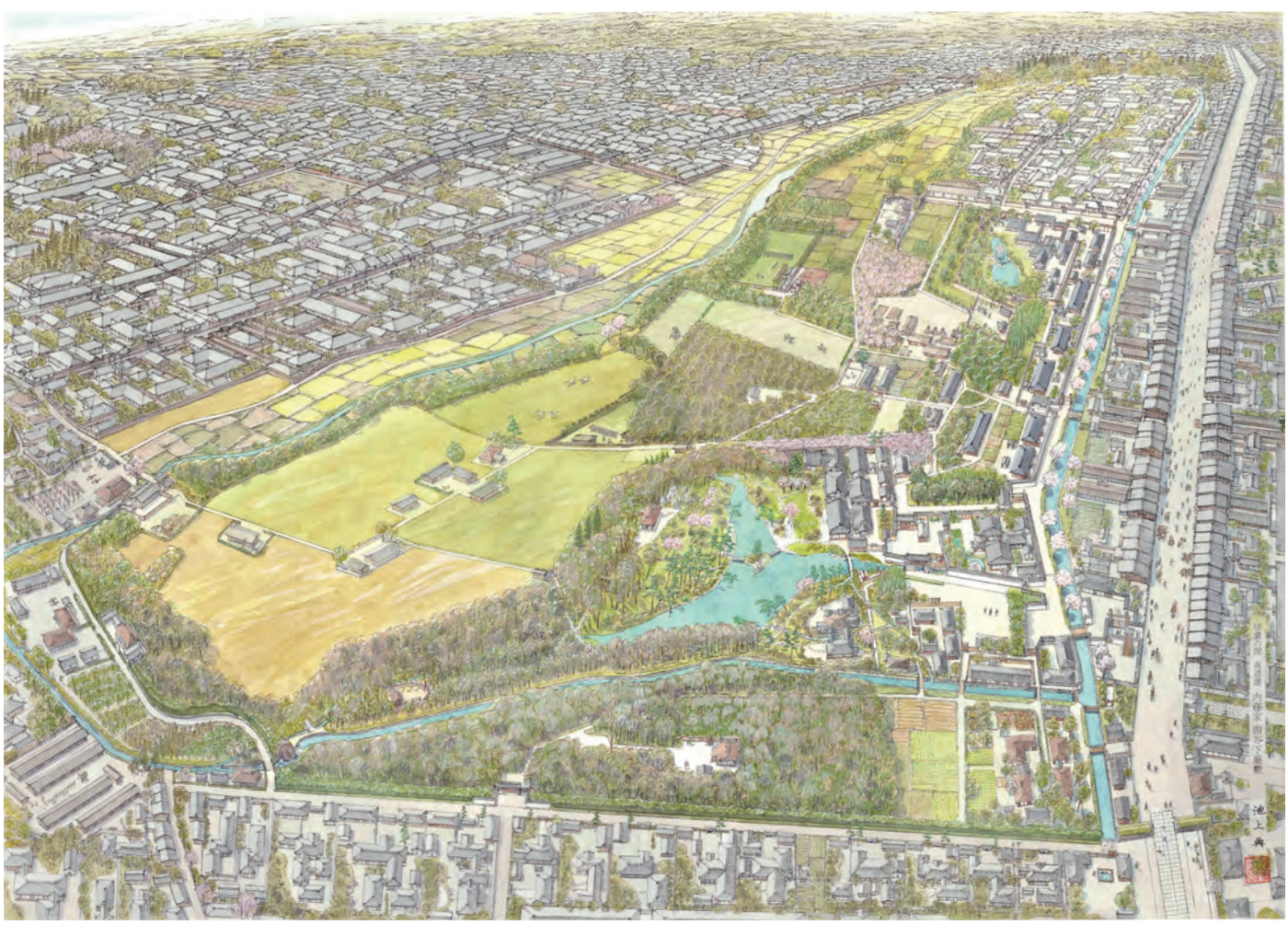
信州高遠藩内藤家の四谷下屋敷

新宿区は長野県伊那市と友好提携を結んでいます。それは、現在の新宿御苑が江戸時代において高遠藩（現在の長野県伊那市高遠町）の江戸下屋敷（「四谷下屋敷」と通称。正確には中屋敷）だったことにちなみます。

そもそも高遠藩が四谷を屋敷としたのは、徳川家康の小姓上がりで、２代将軍徳川秀忠の守役になった内藤清成の時代に遡ります。清成は家康の鷹狩りの際の命令で、自らの白馬で走り回った場所を下賜されました。四谷・代々木・千駄ヶ谷・大久保にわたる約 20 万坪もの広大な土地です。ここは東西に走る尾根筋に、南北を貫く中世以来の鎌倉街道が交わる交通上の要衝でした。のちに甲州道中（現在の新宿通り）として整備され、江戸日本橋から一つ目の宿場として内藤新宿が開設されるのは周知の通りです。そのような重要かつ広大な土地を与えられた清成に対する家康の信頼の厚さが窺われます。なお、酷使された白馬はそのまま息絶えてしまったとされ、駿馬塚として多武峯（とうのみね）内藤神社の境内に葬られています。

さて、内藤清成の子孫は紆余曲折ありましたが、３万石の大名として信州高遠に入部し、高遠藩内藤家となり、四谷下屋敷を幕末まで使用しました。

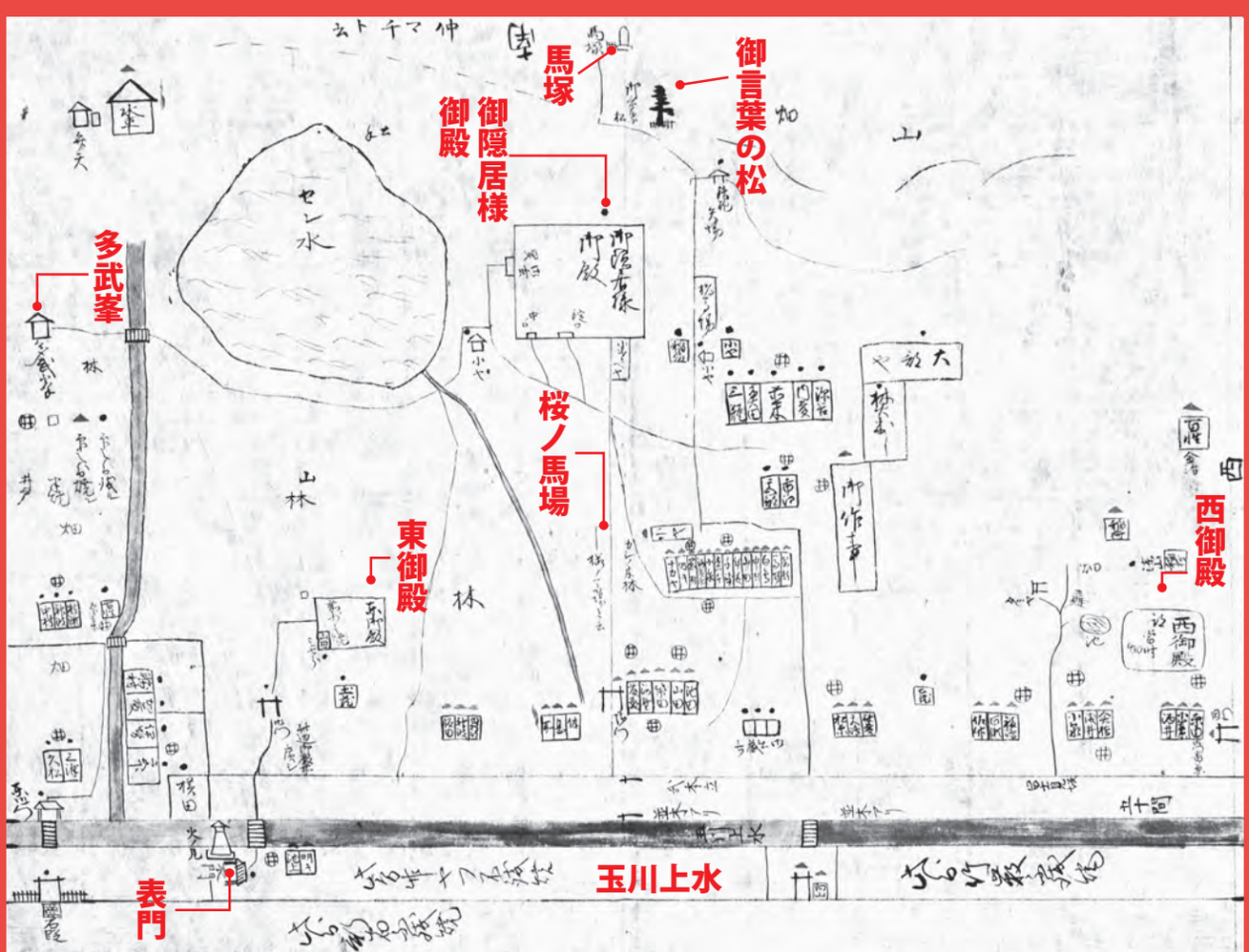


高遠藩内藤家四谷下屋敷再現図　池上 典　画

江戸のくらしと内藤新宿（内藤家） 新宿歴史博物館 常設展示解説シート⑲

天保 11 年（1840）に成立した「御下屋敷諸説紀聞」（当館蔵「山田一文庫」）には、清成の駿馬伝説を始め、四谷下屋敷の用途について、興味深い記事が多く載っています。それを読むと、下屋敷の使用目的は①藩主の側室の生活場所、②藩主の隠居先あるいは先代藩主夫人の生活場所、③上屋敷（神田小川町）が使用不能時の藩主の緊急避難先、④藩主の病気療養先、⑤藩主の養子の生活場所、だったことがわかります。

また、伊那市立高遠町図書館所蔵「長坂家資料」には、嘉永 4 年（1851）以降に作成された貴重な図面があります（下図参照）。そこには、表門以下三つの門、御隠居様御殿以下三つの御殿、家臣の長屋、桜の馬場や杉の馬場と呼ばれる馬場、松露水や桜水といった嘉称が付された数多くの井戸、そして、駿馬塚や家康の命令にちなむ大榎・御言葉の松などの史跡が描かれています。広大な内藤家江戸下屋敷内の様子が見てとれます。



伊那市立高遠町図書館所蔵「長坂家資料」江戸藩邸図（藩邸内諸長屋配置図）